



おぐら  
尾倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和3年7月6日(火)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

# 「生きる」とは何か？「いのち」とは何か？

## 私たちでつくる「みるく世」 13歳がつむいだ平和の詩

沖縄は23日、「慰霊の日」を迎えました。住民を巻き込んだ悲惨な地上戦で、かけがえのない多くの命や文化遺産が奪われた沖縄戦から76年。激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園では、午前11時50分から県と県議会主催の沖縄全戦没者追悼式が開かれました。新型コロナウイルスの影響で参列者は30人に絞るなど、大幅に規模は縮小されたが、沖縄から20万人以上の戦没者に思いをはせ、恒久平和を願いました。

沖縄全戦没者追悼式では、宮古島市立西辺中学校2年の上原美春さん(13)が「平和の詩」を朗読しました。県内の小中高生ら計1500作品から選ばれた詩は、「暗黒の過去」を見つめつつ、命をつなぐ大切さを言葉にしました。タイトルは「みるく世(ゆ)の謳(うた)」。

小さい時から、祖父が三線(さんしん)を奏で、地元の民謡を聞かせてくれました。好きな歌の一節が、詩で引用した「みるく世ぬなうらば世や直れ」。豊作を祈り、皆の生活がよくなるようにと願う歌です。「みるく世」は、沖縄の言葉で、「平和な世」という意味です。

76年前も、人々の心にあっただろう、それぞれの大好きな歌。それが「つらさを乗り越えるパワーになっていたかもしれない」と思いをめぐらし、「平和な世」を多くの人に届けたいと、詩に込めました。身近に戦争を体験した人はいません。兄弟が住む沖縄本島に遊びに行ったときに、平和祈念公園に立ち寄ったり、ドライブ中に米軍基地を目にしたりして、沖縄戦についてより思いを巡らせるようになったそうです。

空には昔も今も、戦闘機が飛んでいます。樹齢100年を超えるガジュマルの木、この季節に満開を迎える月桃。ずっと変わらない景色がある一方、今の日常が当たり前でない時期があったことに気付きました。一昨年、めいが生まれ、命について考えました。子守をして、笑える幸せが、今ある。「今を生きる私たちでみるく世をつくろう」。沖縄戦を忘れず未来に伝えつなぐことが、自分の役目だと感じています。



あなたたちと同じ世代の中学生の心の叫び、平和への思いをどのように感じるでしょうか。この詩を読んで何かを感じ取る豊かな感性をもつ人間になって下さい。

沖縄全戦没者追悼式で朗読された詩の全文は次の通りです。

みるく世(ゆ)の謳(うた) 宮古島市立西辺中学校2年 上原美春

12歳。

初めて命の芽吹きを見た。

生まれたばかりの姪(めい)は

小さな胸を上下させ

手足を一生懸命に動かし

瞳に湖を閉じ込めて

「おなかすいたよ」「オムツを替えて」と

カ一杯、声の限りに訴える

大きな泣き声をそっと抱き寄せられる今日は、

平和だと思う。

赤ちゃんの泣き声を 愛(いと)おしく思える今日は

穏やかであると思う。

その可愛らしい重みを胸に抱き、

6月の蒼天(そうてん)を仰いだ時

一面の青を分断するセスナにのって

私の思いは 76年の時を超えていく

この空はきっと覚えている

母の子守唄が空襲警報に消された出来事を

灯(とも)されたばかりの命が消されていく瞬間を

吹き抜けるこの風は覚えている

うちな一ぐちを取り上げられた沖縄を

自らに混じった鉄の匂いを

踏みしめるこの土は覚えている まだ幼さの残る手に、

銃を握らされた少年がいた事を

おかえりを聞くことなく散った父の最後の叫びを

私は知っている

礎(いしじ)を撫(な)でる皺(しわ)の手が

何度も拭ってきた涙

あなたは知っている

あれは現実だったこと  
煌(きら)びやかなサンゴ礁の底に  
深く沈められつつある  
悲しみが存在することを

凜(りん)と立つガジュマルが言う  
忘れるな、本当にあったのだ  
暗くしめった壕(ごう)の中が憎しみに満たされた日が  
本当にあったのだ  
漆黒の空 屍(しかばね)を避けて逃げた日が  
本当にあったのだ  
血色の海 いくつもの生きるべき命の  
大きな鼓動が  
岩を打つ波にかき消され  
万歳と投げ打たれた日が  
本当にあったのだと

6月を彩る月桃が揺蕩(たゆた)う  
忘れないで、犠牲になっていい命など  
あって良かったはずがない事を  
忘れないで、壊すのは、  
簡単だという事を  
もろく、危うく、だからこそ守るべき  
この暮らしを  
忘れないで  
誰もが平和を祈っていた事を  
どうか忘れないで  
生きることの喜び あなたは生かされているのよと  
いま摩文仁の丘に立ち  
私は歌いたい  
澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ  
今日生きている喜びを震える声帯に感じて  
決意の声高らかに

みるく世ぬなうらば世や直れ

平和な世界は私たちがつくるのだ  
共に立つあなたに 感じて欲しい  
滾(たぎ)る血潮に流れる先人の想(おも)い  
共に立つあなたと  
歌いたい  
蒼穹(そうきゆう)へ響く癒(いや)しの歌  
そよぐ島風にのせて  
歌いたい  
平和な未来へ届く魂の歌

私たちは忘れないこと  
あの日の出来事を伝え続けること  
繰り返さないこと  
命の限り生きること  
決意の歌を  
歌いたい

いま摩文仁の丘に立ち  
あの真太陽まで届けと祈る  
みるく世ぬなうらば世や直れ  
平和な世がやってくる  
この世はきっと良くなっていくと

繋(つな)がれ続けてきたバトン  
素晴らしい未来へと  
信じ手渡されたバトン  
生きとし生けるすべての尊い命のバトン  
今、私たちの中にある  
暗黒の過去を溶かすことなく  
あの過ちに再び身を投じることなく  
繋ぎ続けたい

みるく世を創るのはここにいる  
わたし達だ